

仏陀を慕う

禅の教えも、元を辿ればお釈迦様に到ります。お釈迦様がある時、靈鷲山りやうじゅせんで花を拈ねんじて皆に示し、それをご覧になったお弟子の迦葉尊者がにつこり微笑しました。そうしてお釈迦様は、正しい教えは迦葉に伝わったと仰ったのでした。これが禅の始まりと言われる。それから代々教えが受け継がれて二十八代目が達磨大師であります。ですから禅のおおもとがお釈迦様であると言ってもよろしいのです。

私どもが出家して僧になるのは、仏弟子となることです。お釈迦様の弟子になるのです。思えば私も仏弟子になってもう四十年以上になります。仏弟子になったからには一度は仏陀の遺跡（仏跡）をお参りしたいと思っております。

お釈迦様はお亡くなりになる前に、自分が死んだ後に、仏弟子は四つの場所にお参りするようにと説かれました。それが、降誕の地であるルンビニ、成道（悟りを開くこと）



常 瞻 仰

円覚南願



円覚346号 目次

横田管長のお話

「仏陀を慕う」	1
管長のページ	8
信心ことはじめ④⑤	10
明治居士列伝③／蓮沼 直應	12
外に原因を求める親／桜井 竜生	16
円覚寺の至宝⑪	20
精進料理レシピ／藤川 譲治	22
布薩とは ～お盆にも関係する、謙虚な気持ちになるきっかけ～／横山友宏・由馨	24

表紙・裏表紙写真／円覚寺派宗務本所

ちました。仏陀の国だと思うとそれだけで感激しました。バスでお釈迦様が悟りを開かれた聖地ブッダガヤに向かいました。ブッダガヤには大菩提寺があって、ご住職自らお迎えいただきました。ブッダガヤは二〇〇二年世界遺産に指定されている聖地であります。

お釈迦様は二十九歳で出家し、六年も難行苦行なされました。苦行では悟りを開くことはできぬと気がついて、ガヤ市郊外の尼連禅河で沐浴して、菩提樹の下で坐禅をして悟りを開かれました。大菩提寺はその聖地であります。



ブッダガヤの大塔

なされたブッダガヤ、初めて説法なされたサルナート、そして涅槃に入られたクシナガラ、の四つです。私も仏弟子となったからには、いつの日にかお参りしたいと願っていました。この四大聖地を、今年還暦を迎えるにあたってお参りすることができたのでした。

建仁寺の開山栄西禅師は、日本に初めて臨済の禅を伝えた方ですが、文治三年（一一八七）二度目に宋の国に行った時にインドに行くことを目指されました。日本の仏教をお釈迦様本来の正しい教えに立ち返らせるために、インドに渡ろうと願い出たのでした。しかし、それは許可されず、天台山万年寺で臨済の禅を学び、日本に禅を伝えてくださいました。

明恵上人もまた、お釈迦様をお慕いする

思いが強く、紀州の鷹島で修行した頃、海はインドとつながっているとの思いから、浜辺で拾った石を持ち帰って、終生手元に置いていたというのです。

そんな祖師方が願いながらも果たし得なかった仏跡巡拝をさせてもらったのですから、感慨無量であります。今年二月初旬に一週間かけて仏跡を巡ってきました。建仁寺の小堀泰蔵管長をはじめ、総勢四十余名で四大聖地をお参りさせてもらってきたのでした。

はじめに南の方からブッダガヤ、そしてサルナート、クシナガラ、最後にルンビニを訪ねました。日本を出てタイのバンコクを経由して、ガヤの空港に着きましたが、これだけで一日かかります。

ガヤの空港で初めてインドの地に降り立

大菩提寺には、高さ五二メートル、九層からなる大きな塔と、成道した時に坐っていた金剛宝座と菩提樹、沐浴の蓮池があります。大塔は見上げると大迫力があります。ところが、十三世紀の初めアフガニスタンからイスラムの軍団が押し寄せ、ビハール地方の、仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教の全ての聖地を破壊してしまいました。その時に、仏教徒たちはこの精舎一带に土を盛って丘として隠したそうです。それでブツダガヤの精舎は大破壊から免れ、以後なんと六百年間大塔の九層部を残して、大地の中に埋もれていたというのです。建仁寺の管長と、この大塔を仰ぎながら、「これだけのものを土で埋めたとは信じ難いが、昔の人の信仰心というのは何と偉大であろうか」と話をしたのでした。



生誕の地 ルンビニ

うです。

今回大菩提寺の住職の特別のおはからいで、私たちのために金剛宝座の近くに席を取ってくれていて、しばし坐禅をさせてもらいました。お釈迦様が悟りを開かれたというまさにその地で坐禅をさせてもらうことができたのですから、仏弟子としてこれ以上の僥倖きやうこうはありません。建仁寺の管長の隣で坐禅しながら、感慨無量でありました。

大塔の西側には成道の座である金剛宝座があります。これは紀元前二〜三世紀頃のものらしいのです。そこには今も大きな菩提樹がありますが、これは、お釈迦様がお悟りになった時の菩提樹の孫にあたるそうです。アシヨールカ王の時に、お釈迦様が悟りを開いた時の菩提樹の枝をスリランカに持って行って植樹しました。その菩提樹の分け木が、今のブツダガヤの菩提樹の聖木だそ

そのあと初めて説法されたサルナートにお参りしました。ブツダガヤからバスで七〜八時間もかかるところにありました。思えばお釈迦様は悟りを開いて、それほどの距離を歩いて説法をなされたのです。更に北に向かうと、お亡くなりになったクシナガラに到ります。クシナガラ地も十九



説法の地 サールナート

世紀にアレキサンダー・カニンガムによって発掘されたのでした。この涅槃の地クシナガラには、白亜の殿堂大涅槃寺がごさいます。堂内には、全長6・1メートルもの涅槃像がお祀りされています。これは五世紀 Gupta 王朝の作だそうで、これもカニンガムにより、近くのヒラニヤヴァティー河床から発掘されたのだそうです。イスラムの軍に攻められた時に河底に埋めていたのです。

最後に一番北にあるルンビニにお参りしました。今はネパール領にあります。このルンビニの地も長らくはつきりしていませんでしたが、一九世紀の終わり頃にアシoka王柱が見つかったのです。アシoka王はお釈迦様の入滅からおよそ二百年後の紀元前二七四年頃、即位しています。ア

シoka王は、長い戦乱の経験から、武力による政治から、仏教の理念に基づく法による政治を目指すようになりました。そこで仏教の普及を図るため建立されたのが、「アシoka王柱」です。

その王柱に、「ここはお釈迦様がお生まれになったところであるから、租税を免除する」ということが書かれているそうなのです。

こうして四大聖地をお参りしてしみじみ思いましたのは、どの遺跡も数百年も埋もれていて、十九世紀の終わりになってようやく発掘されたものばかりだということです。インドにおいて仏教は滅んで、そしてイスラムの軍によって寺も仏像も破壊され、もうお釈迦様が本当にいたのかということも分からないほど痕跡がなくなっていたのでした。

円覚寺の釈宗演老師がブッダガヤの大塔を拝まれたのは明治三十八年（一九〇五）、四七歳の時でした。まだ遺跡が土の中から発掘されて二十数年しか経っていない頃です。大塔の前で宗演老師はまず第一に、お釈迦様が慈悲の心をもって人々を救おうとなされたように、生きとし生けるもの皆を救ってゆこうと誓われました。

そして煩惱は尽きることがないけれども断たなければならないと誓いました。次に、煩惱を断つためには、お釈迦様が説かれた教えを学んでゆこうと誓われました。更にこの上ない仏道を成就してゆこうと誓われました。

仏陀をお慕いして仏弟子の一員に加えていただいたのですから、私もまたこの願いに生きねばならぬと誓ったのでした。